

亂闘劇が行詰つた結果各社の時代劇が幕末から遡つて鎌倉時代に背景を求め日先を變えんと試みて居る傾向が最近鮮明になつて來た。マキノの「奇傑鬼鹿毛」小阪の「南海の怒濤」續いて本篇などその一例を語るであらう。そうして此映畫は更に有名な史實を取入れてこれを狂闘劇化して聊かなり新機軸を出さんと努めた映畫であるがその狙ひ所は餘り好意が持てない。それは史實として有名な物語をこゝ薄べらにしてつては我等の脳裡に描く史實の重味を全く破壊された様に感じられる故である。然し百々之助氏の牛若丸少しは下品な所があるにもせよ聞いた丈でも傑り役が加へて天狗飛切りの新演出で此映畫の價値を高めて居る。古海卓二氏の監督は發初の時代劇としては破綻のない出来で殊に激闘もトリックも見事と云ひたいがこれは市川百々之助氏の激闘指導宜しきお陰かも知れないから遠慮して置こう。五條の橋おなじみの立廻りは好く出来て居る。撮影は前記の如く天狗飛切りのトリックも申し分なく其他も目が醒める程美しい。——山本 綠葉——

興行價値——大阪朝日新聞夕刊に連載中の「九郎判官」の一節であるし有名な史實の數々を取入れたものだから一般向で好い、殊に五條の橋等は小供達は大喜び。(十月一日 大阪芦邊劇場封切)